

**DVや
児童虐待等と、
孤独・孤立**

北 仲 千 里



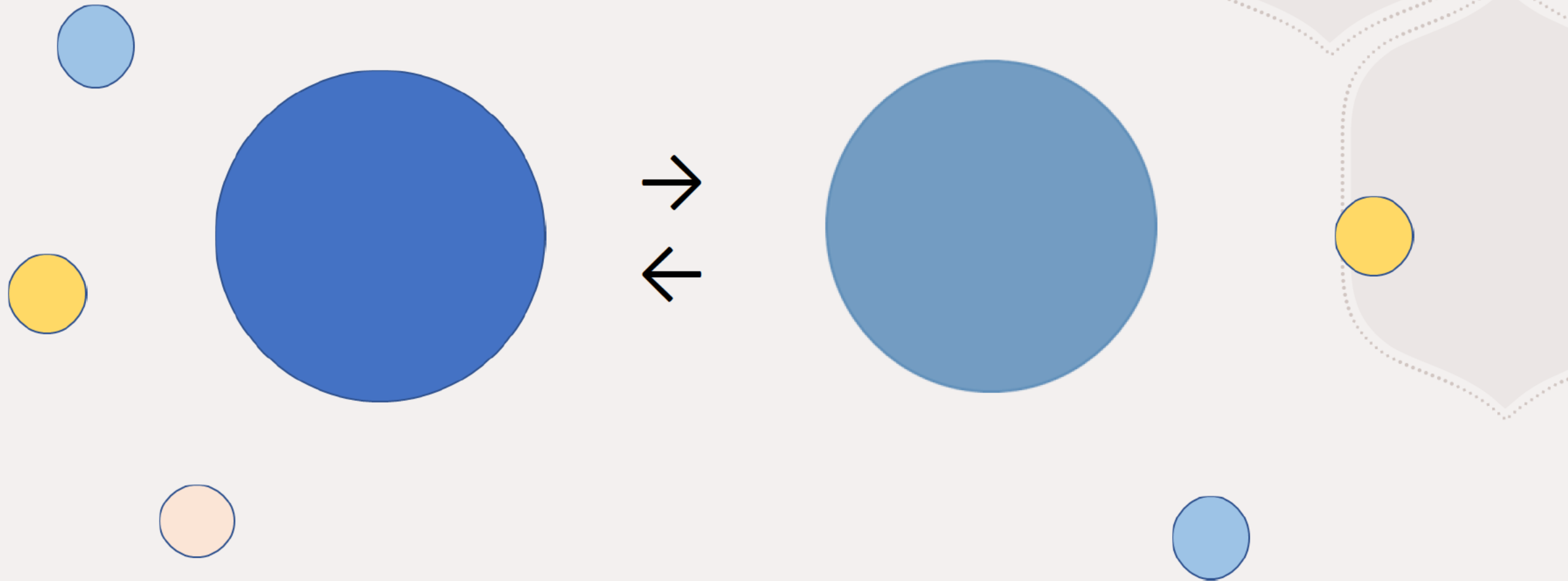
1. 家族に閉じ込められた「孤立」

「家族がいる」＝孤独ではないように見えますが・・・
その家の中が つらい のです。

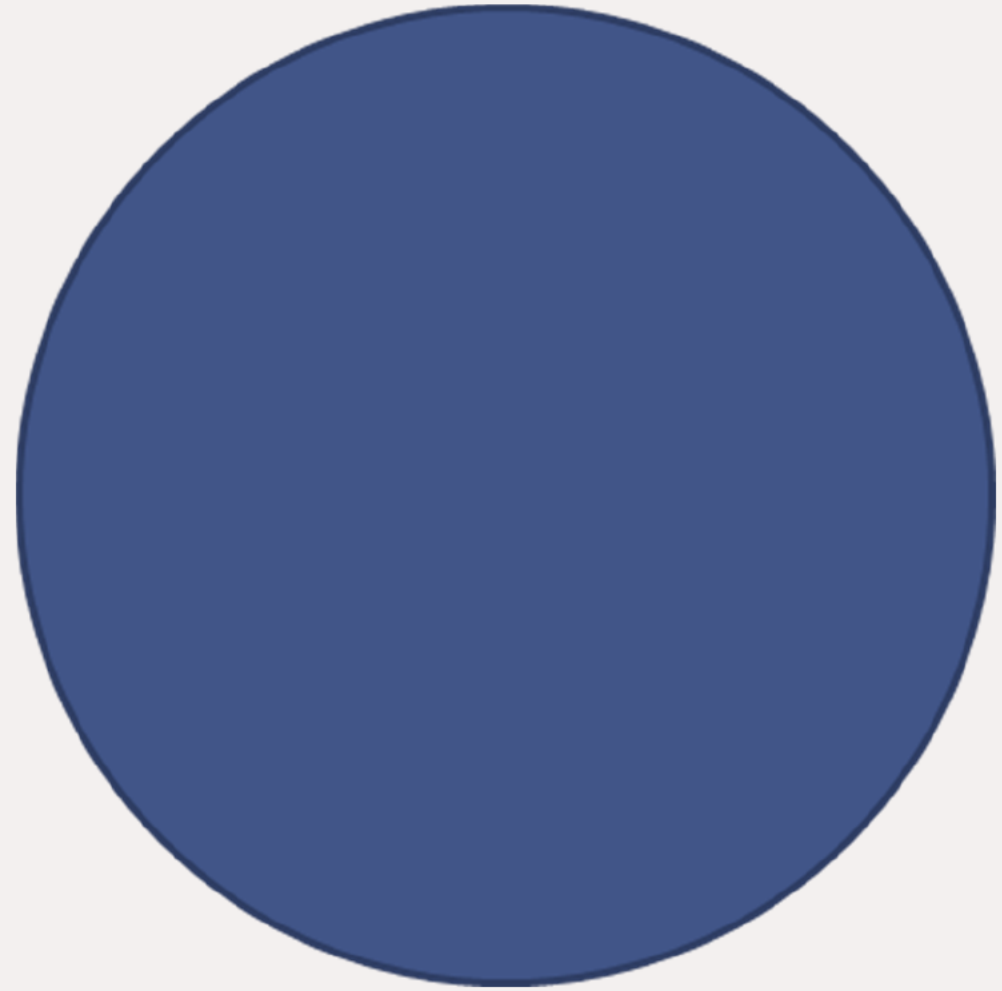
例えばDVの場合

加害者は、配偶者やパートナーを孤立させることによって
支配・コントロールします。

普通のカップル



(いつも びくびく)



自分が帰って来た時必ず家にいろ
自分の好みの服装をしろ
実家によく電話するのも気に入らない
「お前なんか、何もできないやつなんだ」

被害者が、家族以外の誰かとつながって、「それってちょっと、おかしいよ」
「他の家庭・カップルではそうじゃない」と気づくことがとても大切。

きっかけは別に 専門相談でなくてもいいのです

友人に頼りにされているので、「自分はまともだ」という信念を残せた
たまたま同年代の友達と時間を過ごしてみたら、「あれ？」気がついた
(相手に知られないようにこっそり、オンライン・チャットで相談)

子どもの虐待や性被害の場合

家族以外に 話せる大人

あちらにもこちらにもいること

- ・ 友達を通じて、そのお母さん
- ・ 「この先生なら、わかってくれるかな。・・・」



ただ、

その後、脱出できるどんな方法があるのかを提示でき、対応できる機関や専門家が全ての地域に必要です。

「一緒に相談しに行こう」

例： シェルター施設

クリニック(心理カウンセリングや医師など)

弁護士

福祉

監視・支配は 空間を超えても される

- ・ ＊同居している「家庭」という空間での被害が典型ですが、同居していないカップルでも親子でも、同じような状況は起こります。
- ・ 近年はデジタル通信技術が発達し、スマホ、SNSなどで、相手の行動をずっと監視したり、アプリなどで居場所も把握できるようになっています。

→ 対策が急務です。

Tech abuse とか

Technology-facilitated Gender-based Violence

同時にSNSのピア・グループでの支え合いなども有効なようです。

一人じゃないよ



既読

2. 家族からの脱出を阻む「女性の貧困」

いわゆる「女性の貧困」＝「母子家庭の貧困」が脱出の大きな障壁であり、加害者から離れたあとも、非常に大きな課題です。

・これは早急に解決しなければならない社会の大きな課題です。

◆ひとり親家庭の生活支援をする中で、DVや子育ての悩みのニーズも掘り起こして支援できる可能性もあります。

例えば食料支援、住宅支援、就労支援、子どもの学習支援などをする人と、DVや子ども、人権問題などの専門支援の人がつながっておくことも有効かと思います。